

脂質異常症とは・・・

血液中の脂肪分であるコレステロールや中性脂肪の値が低すぎたり、高すぎたりする状態のことです。血液中に余分な脂質が多くなると、動脈硬化を起こしやすくなり、心筋梗塞や脳卒中などのリスクが高くなります。

脂質異常症の診断基準(空腹時採血による数値)

	コレステロール	数値
高LDLコレステロール血症	LDLコレステロール値	140mg/dl以上
境界域高LDLコレステロール血症	LDLコレステロール値	120～139mg/dl以上
低HDLコレステロール血症	HDLコレステロール値	40mg/dl未満
高トリグリセライド(中性脂肪)血症	トリグリセライド値	300mg/dl以上

脂質異常症を放置すると・・・

脂質異常症は、自覚症状がない疾患です。血管内にできたコブ（アテローム）によって血管が狭められると、血液の循環が妨げられるようになります。例えば、心臓へつながる血管が詰まってしまうと、狭心症や心筋梗塞などを含めた心臓病に。脳の血管であれば、脳出血や脳梗塞などの脳卒中を引き起こします。



今ならまだ間に合います！

脂質異常症が進行してしまったことを想像してみてください。あなた一人の問題ではなくなります。



内科医等を受診し、適切な指導を受けましょう！



お問合せ

三菱UFJ銀行健康保険組合
保健事業部 TEL : 050-3613-3125